

私にもできた初めての野菜作り

まず初めにお断りしておきますが、私は農業や園芸の才能はほぼゼロです。鉢植えの花くらいはまあ手入れできますが、育てるとなるとだめなのには以下の理由があります。

- 1 朝寝坊です。起きたころは太陽が高くのぼっています。水やりなどはもっと早くにしたほうが良いらしいです。
- 2 しょっちゅう遠出して留守がちです。
- 3 毎日同じことをするのが苦手です。子供を育てたことがないので誰かの世話を毎日きちんとしたことはありません。母の介護を数年していた際もほとんど家族の T が日課を滞りなく管理していて私は手伝いという感じでした。

さて、ロシアのアナスタシア（別ファイルのアナスタシアについて参照）が本の中で教えている植物の植え方と世話の仕方というのを読んで実行と実験をしてみることにしました。

実験：オクラを植える

- 1 二つのグループに分ける
 - A グループ アナスタシア方式
 - B グループ 従来の育て方

同じ袋に入った種を両グループに使用。同じ土を使う（例外は地植えのもの）同じ水を同じ頻度で与える。

2 A グループ

初めに種を舌下に含んでからプランターに蒔く。素手で土の感触を味わいながら種が元気に成長して行く様子をイメージしながら種の上に薄く土をかぶせる。

雨降りの日以外は朝（起きた時。時刻はまちまち）に水をやりながら少し声をかける。「元気に育つんだよ」等ごく簡単に短時間意識を苗に向ける。外出する際には「行ってくるからお留守番してね」等と声をかける（そうしないで行く時もある）。帰宅する際「ただ今、元気になっていた？」等言いながら葉に軽く手を触れたり、撫でたりする（しない時もある）。そうしない時というのは多くの場合家族の T が水をやってくれる際。

B グループ 従来の育て方

家族の T に頼んで何も特にしないようにしてもらおう。種は普通に蒔く。水やりは A グループと同じ時に、ただし話しかけたり、撫でたりしない。

実験結果

B グループのオクラは7本とも全部虫が付いた。毎日葉が丸まっているのを見て中の虫を取り除いているので、全くの丸坊主にはならないが、ともかく毎日数か所虫にやられる。



葉がスカスカになっている。



丸まった中に青虫がいる。



7本全部が次々に虫に食われる。写真では分かりにくいですが苗全体の色つやと様子が時々、「疲れている」ように感じる。勢いというのか、何となく少し弱いような感じ。

A グループのオクラは6本とも全く無害。一本も一か所も虫がつかなかった。



無傷の葉たち



他の場所のも同様に無傷



左は地植え。石ころだらけで掘るのが難しいので石だけ除き、左隣りの白いポットくらいの直径で深さはそれより少し浅いくらいのところに他のポットと同じ土を少し入れ、苗を植えた。

成長は少し遅く、丈はズングリムックリだが、幹は太い。元気と言うか勢いも柔らかい土の入ったポットの苗と変わらないくらいか、むしろそれよりもしっかりしている。現在は一番大きく広がっている。

右が二日分の収穫。総計 13 本のオクラで 20 個。大きい方も小さいのと変わらないくらい柔らかい。



コメントと補足説明

両グループとも発芽は全部した。成長は両グループとも大体同じ速度。ただし B は丈が少し早く伸びた。A はズングリ気味。一番花の付きは B が全般的に早かった。収穫量は今のところ大体同じ。しかし B の葉は下の方がもう終わっていて葉が枯れて落ち始めているのに対し A はまだ枯れていない。まだまだこれから収穫できそう。つまり寿命が長いかもしれない。

味はどちらも美味しいが、個体差は多少ある。採りたてをその場で洗いもしないでそのまま食べると、ほのかな甘みと共にネバネバな触感が独特。偏見かもしれないが、自分が舌下で唾液と混ぜて植えた A グループのオクラの方が香りがより好ましい。味より香りの違いがより顕著に感じられる。明らかにどちらかが数段勝っているとは言えないのは私の味蕾のせいかもしれない。そして毎日面倒を見ている家族の T のエネルギーが B グループのオクラたちにも良い影響を与えているかもしれない。明らかな違いは虫害の有無とだけは言えます。

私にもできるということは他の誰にでもできるということではないかと思ってこの実験を書きとめました。

これは付けたしのコメントですが、オクラを植える前と植えた後の私の変化をお伝えします。オクラにも他の植物に対しても以前より意識のフォーカス度が高くなりました。特にオクラの傍は素通りできなくて、何らかの声をかけたり、意識を向けたりしてしまいます。そして、

とてもとても可愛いです。

2013.8.18 記